

<<資料>>

むらづくりアンケート調査結果

- 対象：16歳以上の村民
- 実施時期：平成23年8月
- 回収率：35.2%（配布数2,896票、回収数1,018票）

むらづくりアンケート

日頃、村民の皆様方におかれましては、村行政に格別のご理解、ご配慮を賜り心より厚くお礼申し上げます。

さて、このたび、南山城村では、16歳以上の村民のみなさまを対象とした「むらづくり」に関するアンケート調査を実施させていただきます。

アンケートで頂いた貴重なご意見等は、これからの「むらづくり」に反映させるとともに、今後10年間にわたる、村の行政運営の基本となる第4次南山城村総合計画にも活用させていただきます。

公私ともお忙しいことと存じますが、趣旨をご理解いただき、ご協力をお願いいたします。

ご記入頂いた調査票は、お名前・ご住所を書かずに返信用封筒（切手は不要です。）に入れ、平成23年8月5日（金）までに投函してください。

平成23年7月
南山城村役場 総務課
魅力ある村づくり推進室
TEL:0743-93-0102
FAX:0743-93-3030

※ このアンケートは、平成23年7月現在で本村に住所を有する高校生以上の皆様にお送りさせて頂いており、上記目的以外には使用いたしません。
※ アンケートは全部で12ページございます。

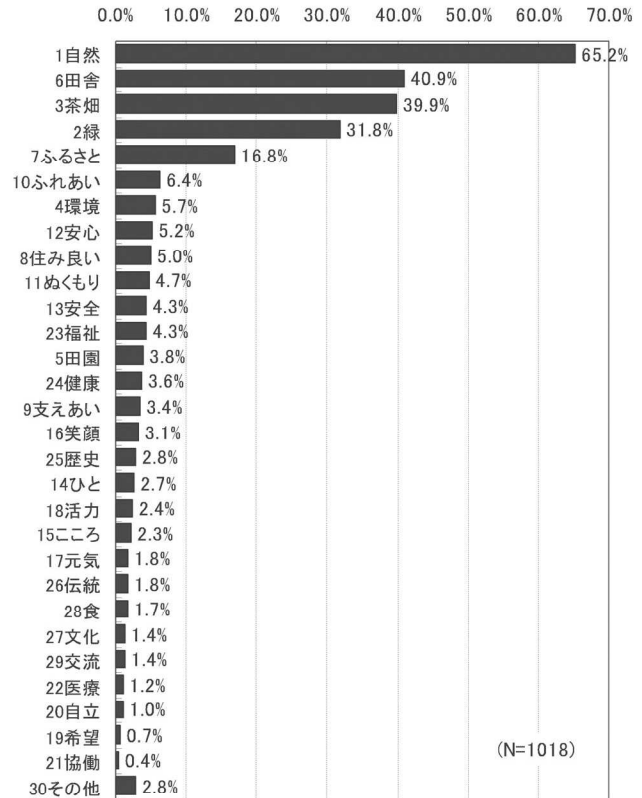
■南山城村のイメージ（問10）

《全体》

- ・「自然」が過半数を超える値になっています。
- ・また、その他も3割以上が「田舎」「茶畑」「緑」を選択しており、南山城村に対して「自然」「緑」「茶」「田舎」といった一連のイメージをもっていることがわかります。

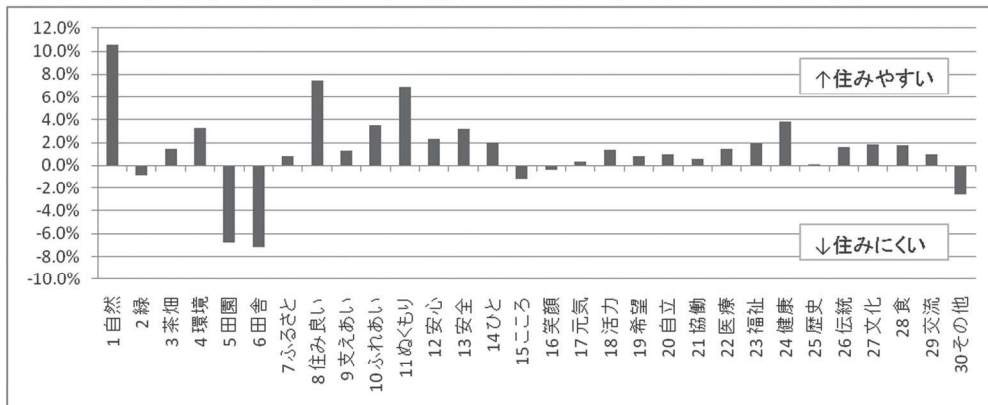
Q10 村のイメージ キーワード

	件数	割合	順位
1 自然	664	65.2%	1
2 緑	324	31.8%	4
3 茶畑	406	39.9%	3
4 環境	58	5.7%	7
5 田園	39	3.8%	13
6 田舎	416	40.9%	2
7 ふるさと	171	16.8%	5
8 住み良い	51	5.0%	9
9 支えあい	35	3.4%	15
10 ふれあい	65	6.4%	6
11 ぬくもり	48	4.7%	10
12 安心	53	5.2%	8
13 安全	44	4.3%	11
14 ひと	27	2.7%	18
15 ところ	23	2.3%	20
16 笑顔	32	3.1%	16
17 元気	18	1.8%	21
18 活力	24	2.4%	19
19 希望	7	0.7%	28
20 自立	10	1.0%	27
21 協働	4	0.4%	29
22 医療	12	1.2%	26
23 福祉	44	4.3%	11
24 健康	37	3.6%	14
25 歴史	29	2.8%	17
26 伝統	18	1.8%	21
27 文化	14	1.4%	24
28 食	17	1.7%	23
29 交流	14	1.4%	24
30 その他	28	2.8%	



《住みやすいと感じる人・住みにくいと感じる人別の村のイメージ》

- ・「住みやすい」と感じる人は、「自然」「住み良い」「ぬくもり」をより多く選択しており、「住みにくい」と感じる人は、「田園」「田舎」をより多く選択しています。
- ・これらはいずれも、「南山城村＝自然」の表裏となる要素であり、「住みやすい」と感じる人には、よい要素として評価されていることがわかります。



■村の暮らしへの評価（問12）

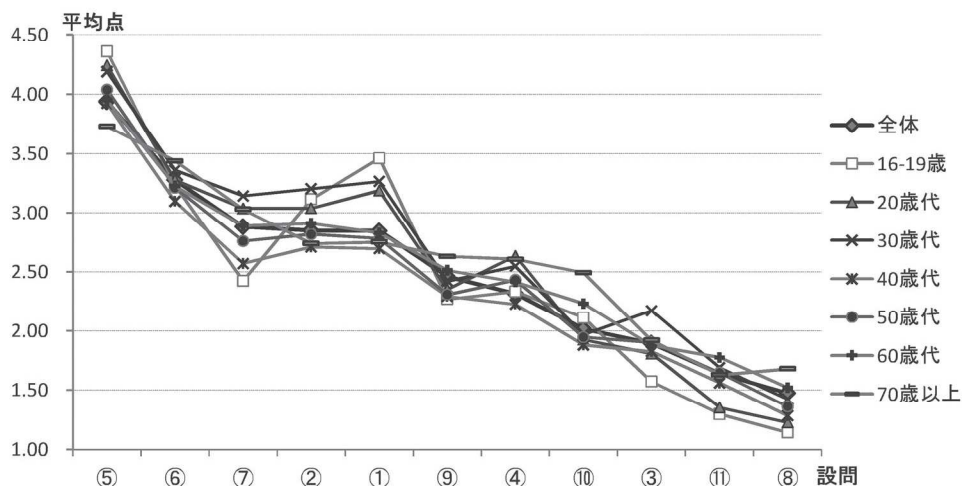
《全体》

- 全体で評価が高いのは、「自然環境が豊かでよい」「近所づきあいがよく助け合いがあってよい」となっています。
- 評価が低いのは、「公共交通の便がよい」「近隣に商業施設があり買い物がしやすい」「若者が生活する場所としてよい」となっています。

Q12 村の暮らし		5	4	3	2	1	無回答	平均点
		そう思う	まあまあ思う	普通	あまりそう思わない	思わない		
1	ゆとりのある暮らしができる	70 6.9%	145 14.2%	415 40.8%	201 19.7%	115 11.3%	72 7.1%	2.85
2	子供を育てる環境がよい	81 8.0%	179 17.6%	310 30.5%	217 21.3%	131 12.9%	100 9.8%	2.85
3	若者が生活する場所としてよい	12 1.2%	32 3.1%	147 14.4%	401 39.4%	346 34.0%	80 7.9%	1.89
4	高齢者にとって暮らしやすい	38 3.7%	143 14.0%	268 26.3%	288 28.3%	214 21.0%	1 0.1%	2.32
5	自然環境が豊かでよい	332 32.6%	312 30.6%	251 24.7%	44 4.3%	17 1.7%	62 6.1%	3.94
6	近所づきあいがよく助け合いがあってよい	124 12.2%	233 22.9%	422 41.5%	120 11.8%	49 4.8%	70 6.9%	3.28
7	むらに住むことに誇りや愛着を感じる	86 8.4%	146 14.3%	390 38.3%	192 18.9%	118 11.6%	86 8.4%	2.88
8	公共交通の便がよい	3 0.3%	17 1.7%	78 7.7%	232 22.8%	620 60.9%	68 6.7%	1.47
9	地域コミュニティなどに満足している	17 1.7%	61 6.0%	431 42.3%	260 25.5%	171 16.8%	78 7.7%	2.46
10	医療や福祉などのサービスが十分である	25 2.5%	58 5.7%	265 26.0%	305 30.0%	290 28.5%	1 0.1%	2.02
11	近隣に商業施設があり買い物がしやすい	12 1.2%	37 3.6%	115 11.3%	220 21.6%	569 55.9%	65 6.4%	1.64

《年齢別》

- 「⑤自然環境が豊かでよい」は、いずれの年齢層も最も評価が高くなっています。
- 最も評価が低いのは、「70歳以上」は「⑪近隣に商業施設があり買い物がしやすい」、その他の世代は「⑧公共交通の便がよい」となっています。



■ニーズ度（重要度－満足度）の高い施策（問13）

《全体》

- ・ニーズ度が高い項目（ニーズ度 1.5 以上）は、「医療施設の充実」と「公共交通網の整備」となっています。また、「生活基盤施設の整備」へのニーズ度が他施策と比較して高い値になっています。

※満足度と重要度は全ての回答を平均したものの。
 ※ニーズ度は、重要度から満足度を引いたもの。

生活基盤施設の整備	満足度	重要度	ニーズ度
1 国道、府道などの幹線道路の整備	2.25	3.69	1.44
2 村道などの生活道路の整備	2.24	3.58	1.34
3 河川、水路の整備	2.51	3.36	0.86
4 防災対策	2.40	3.69	1.29
5 浄化槽の整備	2.42	3.54	1.12
6 水道の整備・充実	2.82	3.60	0.78
7 公園・遊び場の整備	2.21	3.17	0.96
8 交通安全対策	2.53	3.44	0.91
9 防犯対策	2.45	3.63	1.18
10 住宅・宅地の開発	2.38	2.95	0.56
11 ゴミ・し尿などの収集・処理	2.93	3.52	0.58
12 自然環境の保全	2.79	3.51	0.71
13 公営住宅の整備	2.25	2.80	0.55
14 高度情報ネットワークの整備・利活用	2.87	3.48	0.61
15 公共交通網の整備・充実（バス・鉄道等）	1.85	3.76	1.90
産業振興	満足度	重要度	ニーズ度
1 農林業の振興	2.57	3.01	0.45
2 農林業の基盤整備	2.51	3.37	0.86
3 茶業振興について	2.96	3.59	0.63
4 農林業の担い手育成	2.25	3.55	1.30
5 鳥獣害対策	2.11	3.54	1.43
6 公共工事発生土を活用した地域活性事業の実施	2.61	3.18	0.58
7 商工業の振興	2.17	3.33	1.16
8 大規模店舗などの誘致	1.88	3.00	1.12
9 企業の誘致	1.91	3.25	1.34
10 田舎暮らし・移住定住者の推進事業	2.29	3.39	1.10
11 観光レクリエーション産業の振興	2.17	3.36	1.19
12 特産品の開発	2.41	3.70	1.29
医療・福祉の充実	満足度	重要度	ニーズ度
1 医療施設の充実	1.86	3.95	2.09
2 健康づくり運動の推進	2.57	3.45	0.88
3 健康診査などの充実	2.73	3.61	0.88
4 高齢者福祉の充実	2.62	3.71	1.08
5 高齢者の生活支援体制の充実	2.57	3.73	1.17
6 障がい者福祉の充実	2.58	3.60	1.01
7 国民健康保険事業の充実	2.63	3.49	0.85
8 介護保険サービスの充実	2.68	3.65	0.97
9 児童福祉・子育て支援の充実	2.61	3.65	1.03
10 相談窓口の充実	2.63	3.40	0.76

教育・文化の振興	満足度	重要度	ニーズ度
1 小・中学校施設の整備	3.01	3.56	0.55
2 学校教育の充実	2.89	3.65	0.75
3 公民館・集会施設の整備	2.76	3.31	0.55
4 図書館の整備	2.59	3.29	0.70
5 スポーツ施設の整備	2.44	3.23	0.79
6 文化活動の充実	2.72	3.21	0.49
7 スポーツ活動の充実	2.62	3.21	0.58
8 文化財の保全	2.72	3.25	0.53
9 生涯学習の推進	2.77	3.20	0.43
10 国際交流活動の推進	2.62	3.08	0.45
11 広域的な交流活動の推進	2.60	3.16	0.56
12 青少年の健全育成活動の推進	2.67	3.29	0.61
13 差別のないむらづくり	2.87	3.32	0.45

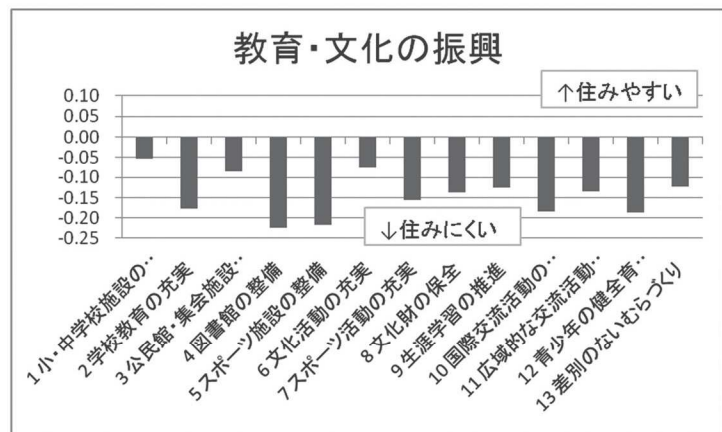
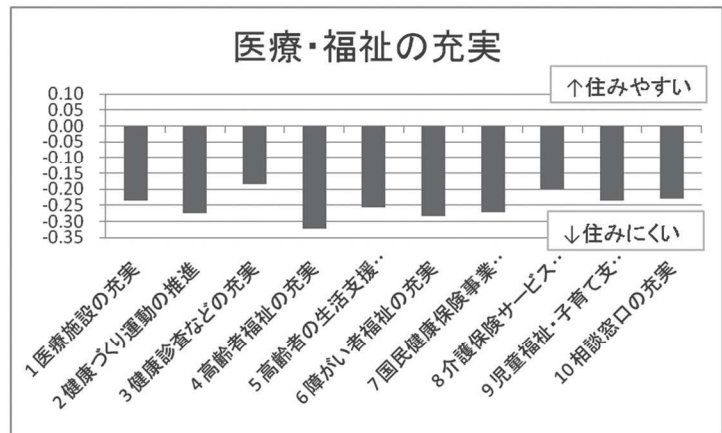
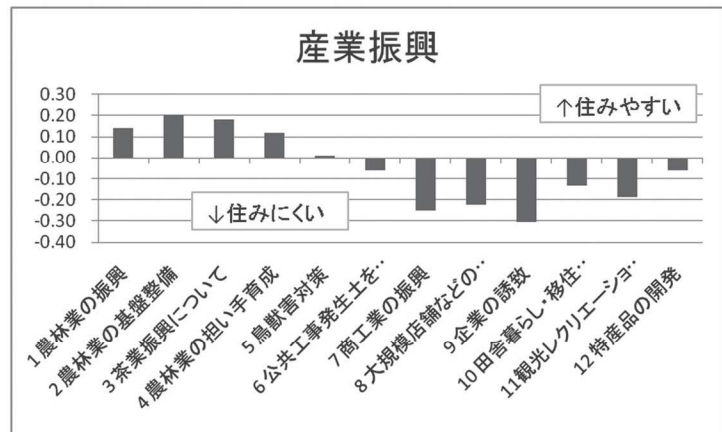
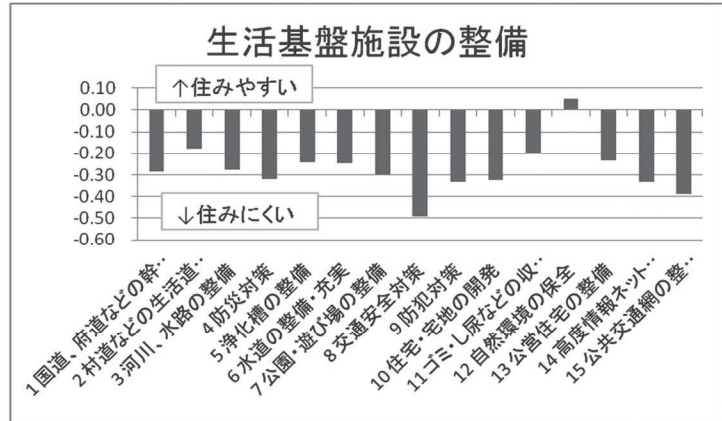
《年齢別でニーズ度の高い項目》

- 年齢別にみると、「生活基盤施設の整備」は 40 歳代～60 歳代、「産業振興」は 30 歳代、「医療・福祉の充実」は 20 歳代～30 歳代のニーズ度が他世代と比較して高く出ており、若い世代に「産業振興」「医療・福祉の充実」への要望が強くなっています。

	生活基盤施設	産業振興	医療・福祉	教育	計
16-19 歳	④⑧⑨⑮	④	①⑥	—	7
20 歳代	①②④⑨⑮	④⑪⑫	①③⑥⑨	—	12
30 歳代	②④⑨⑮	④⑤⑨⑩⑫	①②④⑤⑥⑨	—	15
40 歳代	①②④⑤⑧⑨⑮	④⑦⑩	①⑥	—	12
50 歳代	①②④⑤⑨⑮	④⑤⑪⑫	①	—	11
60 歳代	①②④⑤⑨⑮	④⑤⑩⑫	①	—	11
70 歳以上	①②④⑤⑮	⑤⑫	①	—	8

《住みやすいと感じる人・住みにくいと感じる人別のニーズ度》

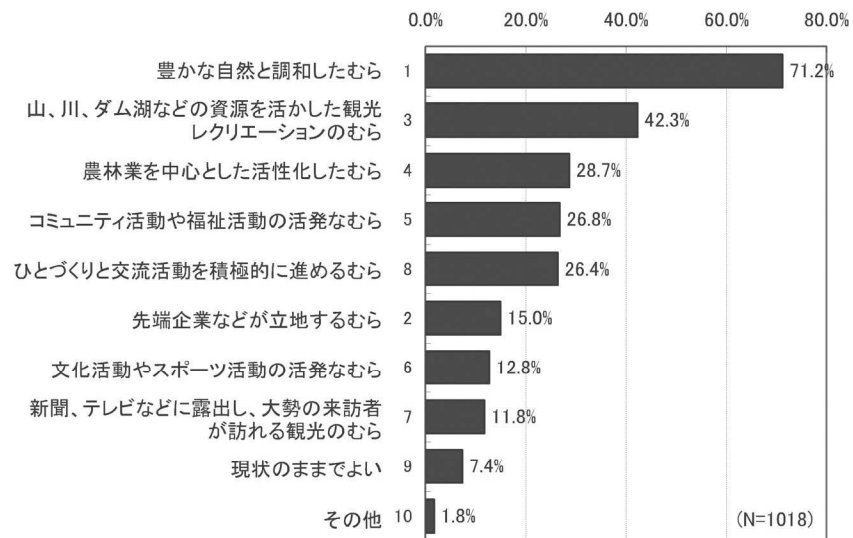
- ジャンル別に、ニーズ度を見ると、「生活基盤施設の整備」「医療・福祉の充実」「教育・文化の振興」については、概ね「住みやすい」とする人よりも、「住みにくい」とする人の方が、必要性を強く感じている結果になっています。
- 一方で、「産業振興」は、「住みやすい」とする人と「住みにくい」とする人のニーズ度に大きな違いが出ています。
- 「住みやすい」とする人は「農林業の振興・基盤整備」「茶業の振興」「農林業の担い手育成」施策について必要性を強く感じており、「住みにくい」とする人は「商工業の振興」「大規模店舗・企業などの誘致」「観光・レクリエーション産業の振興」施策について必要性を強く感じています。
- これは、「住みやすい」とする人は、地域力を高める施策展開を、「住みにくい」とする人は外部資本力を投入する施策展開を望んでいることを示します。



■南山城村の将来の姿（問14）

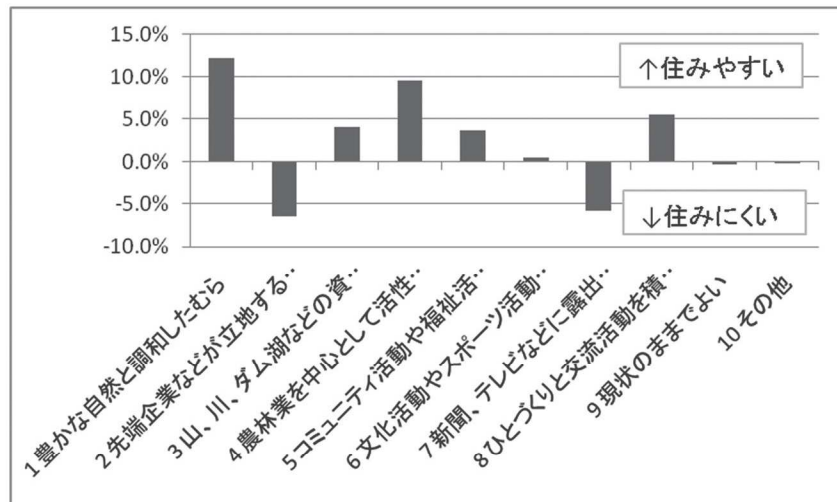
《全体》

- 最も多いのは「豊かな自然と調和したむら」、次いで「山、川、ダム湖などの資源を活かした観光レクリエーションのむら」となっています。
- 一方で、「現状のままでよい」は1割に満たず、何らかの展開が望まれる結果となっています。



《住みやすいと感じる人・住みにくいと感じる人別》

- 「住みやすい」と感じる人は、「豊かな自然と調和したむら」「農林業を中心として活性化したむら」をより多く選択しており、「住みにくい」と感じる人は、「先端企業などが立地するむら」「新聞、テレビなどに露出し、大勢の来訪者が訪れる観光のむら」をより多く選択しています。
- これは、「ニーズ度の高い施策」結果と同様の傾向であり、「住みやすい」とする人は、地域力を高める将来像を、「住みにくい」とする人は外部資本力を投入する将来像を望んでいることを示しています。



■これからのむらづくり（問 15, 16, 17）

【むらづくりの主体】

《全体》

- ・「行政と住民が協働で行うべきだ」が過半数となっています。

Q15 これからのむらづくり		件数	割合
1	行政主体で行うべきだ	55	5.4%
2	どちらかというと行政主体で行うべきだ	127	12.5%
3	どちらかというと住民主体で行うべきだ	32	3.1%
4	住民主体で行うべきだ	44	4.3%
5	行政と住民が協働で行うべきだ	526	51.7%
6	どちらでもよい	110	10.8%
	無回答	124	12.2%
合計		1018	100.0%

【現時点の住民参加】

《全体》

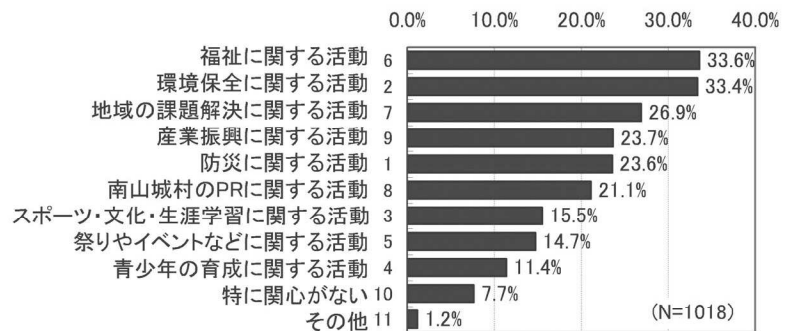
- ・「ある程度進められている」が最も多くなっていますが、各選択肢で意見が同程度に分散しており、評価が分かれています。具体的には、年齢別、居住歴別に傾向が異なっており、それぞれの経験に応じて、評価が異なることがわかります。

Q16 住民参加		件数	割合
1	十分進められている	16	1.6%
2	ある程度進められている	206	20.2%
3	やや不十分である	110	10.8%
4	不十分である	190	18.7%
5	どちらともいえない	188	18.5%
6	わからない	196	19.3%
	無回答	112	11.0%
合計		1018	100.0%
“進められている”		222	21.8%
“不十分”		300	29.5%

【関心のあるむらづくり活動】

《全体》

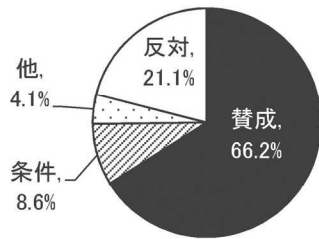
- ・「福祉に関する活動」が最も多く、次いで「環境保全に関する活動」「地域の課題解決に関する活動」となっています。
- ・「特に関心がない」は1割未満と、何らかの活動に関心のある方が多いのも特徴として出てきています。



■道の駅整備等（問18／自由記入）

【回答者】

- ・回答者1,018人の約半数にあたる532件の意見記入がありました。
- ・道の駅整備等について、「賛成」66%、「反対」21%、「賛否未明で条件提示」9%、その他4%となっています。



- 「賛成」352件（66.2%）
（賛意の他、希望施設の記入、運営の提案等も含む）
- 「反対」112件（21.1%）
（不要の他、事業費及び経営への不安等を含む）
- 「賛否未明で条件提示」46件（8.6%）
（判断方法、場所の提案含む）
- 「その他」22件（4.1%）
（設問内容以外の意見）

【賛成意見】

- ・「賛成」は、「具体的希望」「ビジョン提示」「賛意表明」「運営提示」の大きく4項目が意見として出ています。
- ・「具体的希望」が最も多くなっています。（意見内容は、下項目を参照）
- ・次いで「ビジョン提示」（安心安全なものを、村をPRできるものを、差別化・高品質化を、活性化につながるものを等）、「賛意表明」（具体の提案はないが、道の駅の整備に賛成、支援の意）、「運営提示」（ごみの管理、地元の雇用促進、地元の出店・参加、交通アクセスの工夫を等）が多くなっています。

具体的希望	件数
ビジョン	21件
賛意	19件
運営	16件

【賛成意見のうち、具体的希望】

- ・「店舗・商品販売」施設希望が最も多く、次いで「付帯施設（公園・広場・スポーツ等）」「店舗以外の施設（博物館・温泉・医療福祉等）」への希望が多くなっています。
- ・また「イメージ発信（コンセプト、安心・安全、村のイメージ発信等）」への希望も出ています。

中分類	件数	小分類	件数	中分類	件数	小分類	件数
全体構想・複合施設			24				
店舗・商品	116	地場産・特産品	48	付帯設備	55	公園・広場	19
		飲食店	18			スポーツ・アウトドア	11
		コンビニ	15			車両関連	11
		物販	15			トイレ	7
		スーパー・複合	13			発電施設	3
		その他	7			その他	4
		施設(店舗以外)	40			博物館等	10
温泉	9			事務	5		
医療・福祉	6			体験	9		
多目的スペース等	5			その他	4		
宿泊施設	3			イメージ	36	コンセプト	10
その他	7					安心・安全	10
						村のイメージ発信	14
						規模	2

【反対意見】

- ・「反対」理由をみると、右表のとおり9項目に分類できません。
- ・「不要」が最も多いです。
- ・「費用」については、「膨大な費用がかかるのではないか」「箱ものに予算をかけるべきでない」「経営が困難ではないか」「維持費が嵩むのではないか」「無駄遣いである」等となっています。
- ・「集客・販売」については、「集客が見込めないのでは」「集客につながる品物がない」「特産物が少なく意味がないのでは」「農産物販売は直売があり不要ではないか」等となっています。
- ・また「残土利用目的」で道の駅を作ることへの反対という意見も出ています。
- ・その他、「福祉（福祉施策に予算を使うべき等）」「場所（構想されている場所は反対、構想されている場所の自然を守りたい等）」「道路交通（道路整備をすべき、構想場所の交通の便が悪い等）」「不安（発展期待できない、日常生活に不安、商売は不安等）」「他（工事施工、寄付すべき）」等が出ています。

不要	46	件
費用	23	件
集客・販売	12	件
残土利用目的	8	件
福祉	6	件
場所	5	件
道路交通	5	件
不安	5	件
他	2	件

【賛否未明で条件提示】

- ・内訳は右表のとおり9項目に分類できます。
- ・「情報発信・PR」に関する意見が多くなっており、「情報が不足しており意見が述べられない」「行政の考え方や構想を発信してほしい」「判断材料がない」「村民への周知徹底を」等の意見がありました。
- ・「場所について」は、立地や交通の便に対しての不安等の意見、場所の提案等がありました。
- ・その他、「住民を含めた十分な議論、専門家の十分な検討を」「将来的な見通し、交通量・人口推計、市場調査等十分に調査を」「既存の直売所はどうするのか、商店街等を圧迫しないように」「道の駅で何を売るか、購買力あるか」「工事費の縮小、経営の工夫を」「治安確保、若い子が夜たむろしないよう」「不要な業者、施設」に関する意見がありました。

情報発信・PR	10	件
場所について	9	件
今後の議論	6	件
十分な調査	6	件
既存施設との関係	5	件
道の駅の商品	4	件
経営・財政	2	件
治安対策	2	件
不要なもの	2	件

【その他】

- ・内訳は右表のとおり6項目に分類できます。
- ・集落対策や村の財政など「まちづくり」について、墓地や医療施設など「公共施設等」について、「歩道など道路整備」、「買い物場所がない」、「村の状態や村長の考えを発信してほしい」「直売所の値段や販売方法」の意見がありました。

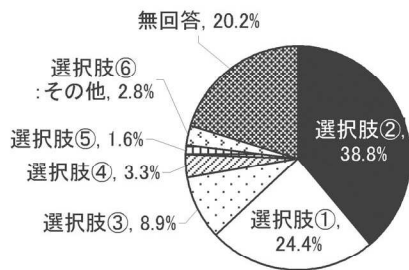
まちづくり	6	件
公共施設等	4	件
道路交通	3	件
買い物	3	件
情報発信	3	件
直売所	3	件

■今後の行政サービス（問19）

《全体》

- ・「サービスの種類と水準を見直して、サービスの重点化を図るべきである」が最も多くなっています。

※行政サービス：各種諸証明書の交付、医療・福祉手当、学童保育、コミュニティバス、道路等の整備・維持、総合グラウンド、やまなみホール・公民館等の公共施設の運営、水道、IP等の利用料金、その他、役場の行う業務全般のこと。サービスの利用者とは住民の皆様のこと

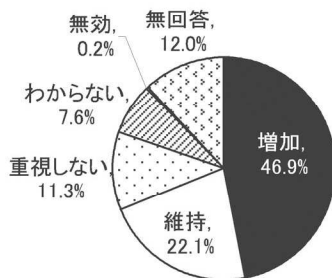


Q19 行政サービスのあり方		件数	割合	順位
1	サービスの利用者に一定の負担を求めるなどして収入を確保し、サービスの種類や水準を確保すべき	248	24.4%	2
2	サービスの種類と水準を見直して、サービスの重点化を図るべきである	395	38.8%	1
3	サービスの種類が減るのは仕方ないが、サービスの水準は維持すべきである	91	8.9%	3
4	サービスの水準の低下は仕方ないが、サービスの種類は維持すべきである	34	3.3%	4
5	サービスの種類が減り、水準も低下するのは仕方ないことである	16	1.6%	5
6	その他	28	2.8%	
	無回答	206	20.2%	
合計		1018	100.0%	

■南山城村の人口（問20）

《全体》

- ・「人口が増加するように取り組むべき」が最も多く約半数を占めています。この傾向は、年齢別、居住歴別にみても、同一の結果となっています。



Q20 人口について		件数	割合	順位
1	人口が増加するように取り組むべき	477	46.9%	1
2	現状程度の人口を維持していくべき	225	22.1%	2
3	人口の減少は時代の流れであり、人口増加や維持に対する取り組みは重視しない	115	11.3%	3
4	わからない	77	7.6%	4
	無効	2	0.2%	
	無回答	122	12.0%	
合計		1018	100.0%	

■南山城村の商圈・通勤圏等（問21）

《全体》

- ・「日用品などの購入先」「家族、友人との外食先」「病気、けがなどの通院先」は、「三重県内」が最も多く、三重県が日常的な商圈になっています。
- ・一方で、「高級品などの購入先」は「大阪府内」、「公園、広場の利用先」「仕事先、通学先」は、「相楽郡内」が最も多く、目的別に使い分けがされており、4府県にまたがる南山城村の立地条件がよく反映されています。

Q21 周辺地域とのかかわり		1	2	3	4	5	6	7	
		木 相 津 楽 川 郡 市 内 含 む	(相 京 楽 都 郡 府 外 内)	奈 良 県 内	大 阪 府 内	滋 賀 県 内	三 重 県 内	そ の 他	無 回 答 ・ 無 効
1	日用品などの購入先	87 8.5%	24 2.4%	46 4.5%	5 0.5%	4 0.4%	723 71.0%	7 0.7%	122 12.0%
2	高級品などの購入先	25 2.5%	93 9.1%	189 18.6%	221 21.7%	2 0.2%	216 21.2%	64 6.3%	208 20.4%
3	家族、友人との外食先	51 5.0%	55 5.4%	202 19.8%	33 3.2%	1 0.1%	485 47.6%	13 1.3%	178 17.5%
4	公園、広場の利用先	172 16.9%	67 6.6%	110 10.8%	20 2.0%	10 1.0%	146 14.3%	117 11.5%	376 36.9%
5	病気、けがなどの通院先	342 33.6%	72 7.1%	79 7.8%	11 1.1%	3 0.3%	344 33.8%	11 1.1%	156 15.3%
6	仕事先、通学先	187 18.4%	51 5.0%	94 9.2%	39 3.8%	7 0.7%	118 11.6%	82 8.1%	440 43.2%

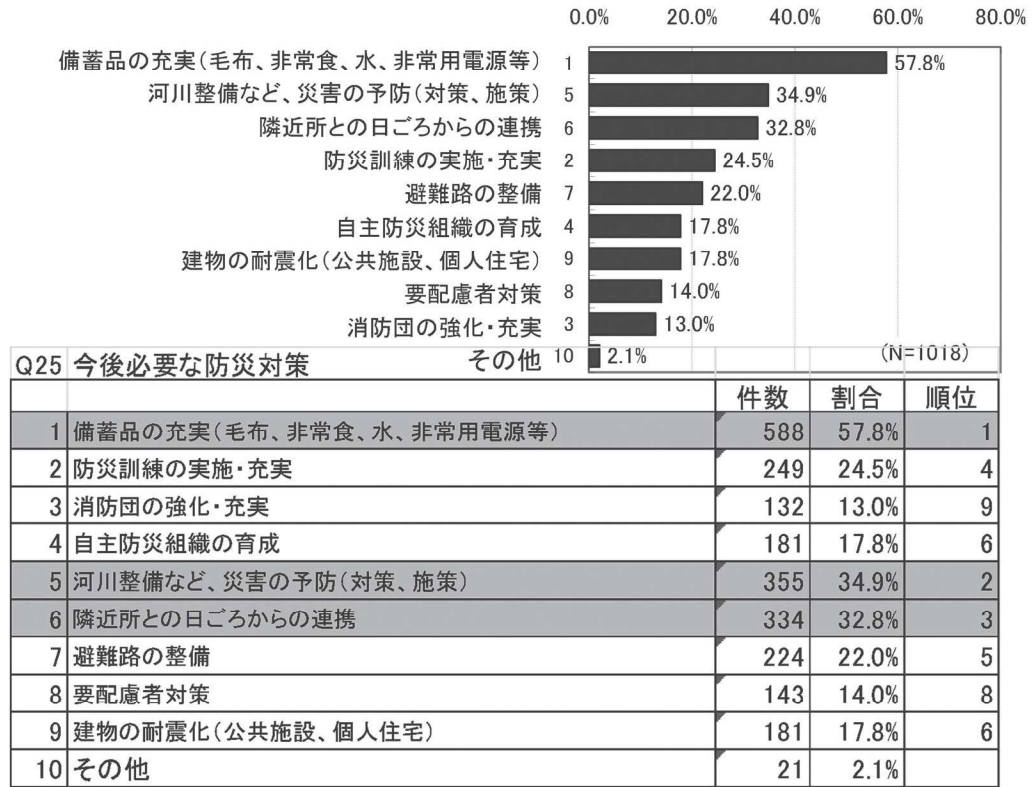
《年齢別》

- ・「日用品」はいずれの世代も「三重県内」、「高級品」は“50歳代以下”で「大阪府内」、「40歳代」同率で「奈良県内」、「60歳以上」で「三重県内」となっています。「外食」は“20歳代”で「府内」となっているが、その他の世代では「三重県内」となっています。
- ・「通院」については、“50歳以下”で「三重県内」が多くなっているが、“60歳以上”では「相楽郡内」が最も多く、通院にかかる機会が多いと想定される高齢世代は、身近な病院を利用していることがうかがえます。
- ・「仕事先・通学先」は「16～19歳」で「京都府内」が最も多く、「20～50歳代」「70歳以上」で「三重県内」、「60歳代」および「20歳代」（同率）で「相楽郡内」が最も多くなっています。

■必要な防災施策（問25）

《全体》

- ・今後必要な防災施策については、「備蓄品の充実」が最も多く、次いで「河川整備など、災害の予防」「隣近所との日ごろからの連携」となっています。



■南山城村の移住した理由（問8）

《全体》

- ・「田舎暮らしが良かった」が最も多くなっています。

Q8 転入した理由	※Q6で6,7と回答		
	件数	割合	順位
1 田舎暮らしが良かったから	20	41.7%	1
2 子育て、教育の環境が良いから	2	4.2%	5
3 福祉サービスが充実しているから	0	0.0%	6
4 通勤・通学に便利だから	0	0.0%	6
5 親族などが村に、もしくは近隣に住んでいるから	6	12.5%	3
6 村に住所のある方と結婚したから	11	22.9%	2
7 土地が安かったから	5	10.4%	4
8 その他	7	14.6%	
合計(Q6で6,7と回答)	48		